

2026 年度（令和 7 年度）事業計画書

（2025 年 9 月 1 日～2026 年 8 月 31 日）

1. 全般および創立 100 周年記念について

会員数の推移はわずかながら増加傾向にあり、2026 年度から学生会員の年会費完全無料化を実施し、若い研究者の新規獲得を図る。創立 100 周年にあたる今期は様々な記念事業（100 周年記念ロゴマークの会員からの募集、記念サイトの公開、記念式典、3 名のノーベル賞受賞者を迎えるの記念シンポジウム、若手研究者「未来の生化学」発表賞、若手研究者討論会、市民公開講座、「生化学誌」記念記事掲載）を企画している。特に市民公開講座では一般市民向けの病気についての講座を開催する。

2. 大会およびシンポジウムの開催

第 98 回大会および創立記念シンポジウムを 2025 年 11 月 3 日～11 月 5 日に京都国際会館で開催する（別添）また、今期 24 回目となる国際会議としての JBS バイオフロンティアシンポジウムの企画も会員から公募し、補助金を支給する予定。

3. 支部活動

各支部主催の例会・シンポジウムはこれまで支部内だけで活動していたが、支部同士での相互交流を図り、生化学若い研究者の会との連携を図り幅広く活動することとする。また、課題などの掘り起こしの場として会員同士の意見交換を行い、本部へ問題提起する。

4. 国際交流の推進

本会は IUBMB、FAOBMB を構成する組織として国際交流を推進する。2029 年に本会主催 FAOBMB Conference を開催するにあたり、組織委員会を結成し、準備にあたる。

4. 会誌「生化学」の企画

今期は創刊 100 周年にあたり、記念記事の掲載を行う。歴代の会頭、会長による「鑑往知来～生化学会 100 年の軌跡」「特別総説」は記念サイトへも掲載し一般公開する。支部選出委員の広い視野の内容や記事を掲載の企画を織り込む等内容を一層充実させる。「生化学」電

子版では、総説他すべての記事を一般公開する。

6. Journal of Biochemistry (JB) の強化と充実

2022 年は創刊 100 年を迎え、投稿論文、海外販売部数の増加を図り、インパクトファクター上昇を目指す。速報性を重視、投稿・出版費を無料として投稿者にとって、より良い Journal にすることを心がけ、また、JB シンポジウム、ランチョンを企画する。特集号はオープンアクセスとして誰でも読める。

7. 研究業績の顕彰

本会奨励賞および JB 論文賞の授与を継続して行う。本会で候補者選考を行っている（公財）倶進会の「柿内三郎記念賞」と「同奨励研究賞」は、候補者募集の周知をはかり、知名度を上げるよう努力する。大会で受賞講演を執り行う。その他表彰および諸財団の研究助成事業に対し、本会会員より推薦するにあたり財団との協力体制を強化する。

8. 若手研究者の奨励

生化学若い研究者の会主催「夏の学校」の活動支援を継続する。本会大会で発表した若手研究者への若手優秀発表賞を継続し、若い研究者を活気づけるよう大会への参加も促す。大会内では高校生発表も行う。

9. 助成

2017 年度から開始した「早石修記念海外留学助成」を、広く周知することに努め、将来日本の生命科学に貢献できる優秀な人材に海外留学費用を助成するものである。資金源は小野薬品工業（株）の寄付により一人当たり 800 万円 年間 5 名までを支給する。

10. 市民公開講座

創立記念行事の一つとして、2025 年 12 月 7 日に安田講堂にて「生化学の 100 年、いのちのこれから～脳をまもる、がんを超える、眠りを深める～」と題し、一般向け市民公開講座を無料で開催する。